



いわせほっとニュース

<http://www.iwase-hp.jp/>

発行日 2018 年 9 月 19 日

〔公立岩瀬病院の基本理念〕

患者さん中心の医療を実践し、地域の皆さんに信頼される病院をめざします。



診察中の細谷医師

目 次

- | | |
|-------------------------------------|------------------------|
| ◆ Dr's Cafe
「RSウイルスと肺炎・喘息」……………2 | ◆ シリーズ チーム医療 ⑩ ……………5 |
| ◆ オープンシステム総会開催 ……………3 | ◆ 病院用語ナビ『歯周病』……………5 |
| ◆ 健康教室を開催しています ……………3 | ◆ 部署紹介「地域医療連携室」……………5 |
| ◆ 病院フェスティバル開催のお知らせ……………4 | ◆ シリーズ 医療安全管理室 ②……………6 |
| ◆ 高校生一日看護体験……………4 | ◆ 健康レシピ……………6 |





RSウイルスと肺炎・喘息

RSウイルスというウイルスをご存知でしょうか？最近よく耳にするようになったという方もいるかと思います。

RSウイルスは乳幼児の呼吸器感染症で最も頻度の高い原因ウイルスで、2歳までにほぼ100%の児が感染すると言われており、一生の間再感染を繰り返します。症状としては咳、鼻水、発熱が見られます。ひどくなるとゼイゼイしたり、ハカハカしたり、呼吸が苦しそうになり、入院での治療が必要になることがあります。もともとは冬季(秋から春にかけて)流行していましたが、最近では流行開始が2か月以上早まり、8月頃から流行するようになっています。

では、2歳までにほぼ全員が感染するウイルスなのに、感染すると何が問題なのでしょう。まず、生まれたての赤ちゃんは、お母さんから胎盤を通じてもらっていた免疫(移行抗体)が残っているので、感染症にはかかりにくい状態です。しかし、RSウイルスは感染症にかかりにくい時期であっても感染し、発症します。乳児は大人や年長児に比べて鼻が狭く、気道も細いので、鼻水で鼻が詰まったり、感染で気道が腫れるだけでも呼吸が苦しくなってしまう。このような理由で、特に1歳未満で感染した場合には重症化しやすいという特徴があります。



また、入院が必要なほど重症なRSウイルス肺炎や気管支炎の場合には、肺炎や気管支炎が良くなっても、ゼイゼイしやすくなり、喘息の発症率が高くなると言われています。

重症化しやすい感染症ですが、RSウイルスには特効薬がありません。そこで、感染予防が重要になってきます。特に集団保育(幼稚園や保育園)の場合には、長時間の集団生活となるので、遊びなど濃厚な接触の機会が多くあります。RSウイルスは接触感染や飛沫感染ですので、咳エチケット、マスク、手洗い、うがいといった標準的な感染予防でも効果的です。また、アルコール消毒が効きますから、赤ちゃんに触る前に手を洗い、アルコール消毒を行うことが有効です。

感染症は子供にとっては身近なものです。時に重症化し、入院での治療が必要になったり、命に関わる場合があります。手洗い、うがいなど小さなところから気を付けることで、少しでも感染症で苦しむ子供が減ることを願っています。



オープンシステム総会開催

6月28日(木) グランシア須賀川を会場に、公立岩瀬病院オープンシステム総会を開催しました。地域の医療関係者や病院職員ら約240人が参加しました。これは、オープンシステム登録医をはじめ、病病連携や病診連携、また医療・介護連携の一層の向上を目的とし毎年開催しているもので、今年で18回目となりました。

総会では、はじめに伊東幸雄企業長が「地域包括ケアシステムの実現にむけて、当院としての役割を果たしていくことが喫緊の課題です」とあいさつしました。三浦純一病院長、高橋清二須賀川医師会長のあいさつに続き、大谷聡化学療法科部長と土屋貴男副院長兼消化器外科部長がそれぞれ講演を行いました。



大谷聡化学療法科部長

大谷聡化学療法科部長は「当院における化学療法の現況」をテーマに、胃癌や大腸癌に対する症例をもとに病期別5年生存率などについてわかりやすく解説しました。また、土屋貴男副院長兼消化器外科部長は「当院におけるがん治療の現況」をテーマに、診療科別にがん治療患者数や手術症例数などについて、症例を呈示しながら解説しました。特に当院では患者さんへの侵襲の少ない腹腔鏡下手術症例数が多く、クオリティーの高い手術を日常的に行っていることを紹介しました。その後懇親会を開催し、福祉や介護、行政など多職種から約120名が参加し交流を深めました。



土屋貴男副院長兼消化器外科部長



会場の様子



健康教室を開催しています。

公立岩瀬病院では、糖尿病の患者さんや糖尿病に関心のある方を対象に年4クール、1クール3回の健康教室を開催しています。

1クールの中で内科医師や管理栄養士、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士、看護師が順番で講演します。日頃なかなか聞けないお話を聞いたり、疑問に思ったことを質問したり、糖尿病についての知識を深めることが出来る教室です。

次回の予定

第33クール	秋から冬にかけての過ごし方～感染症予防～	
11月7日(水) 13:00～	糖尿病とその合併症	國分令子医師
	食事と低血糖について	管理栄養士
11月14日(水) 13:00～	感染症について	薬剤師
	細菌感染と血糖について	臨床検査技師
11月21日(水) 13:00～	秋の運動	理学療法士
	合併症について	看護師

今年も病院フェスティバルを開催します!!

今年も盛大に「病院フェスティバル」を開催致します。早いもので第15回目の開催となります。病院行事の一大イベントとして職員全員で盛り上げて準備を進めているところです。

今年のテーマは、**「来て!見て!感じて!公立岩瀬病院」**
～人生を楽しみながら長生きを!ピアノが奏でるメッセージ～

公立岩瀬病院に来てほしい!

熱く優しいスタッフがどんな専門知識や技術で仕事をしているのか見てほしい!

来てくださった皆さんに公立岩瀬病院を身近に感じてほしい!

という職員の思いから、このテーマが生まれました。

毎回好評をいただいております講演会も楽しみにして下さい。当院の医師・スタッフが最新の医学知識と技術を、分かりやすくみなさんにお伝え致します。そして今年は、スペシャルなことにプロのピアノ奏者によるコンサートも開催致します。「福島の病院にピアノと音楽を届けたい」というプロジェクト企画で活動をなさっている方々のご厚意により病院フェスティバルでのピアノコンサートが行われる運びとなりました。ピアノの音色で、みなさんに心の癒しもお届けすることができたらいいなと思います。今年の病院フェスティバル!乞うご期待。たくさんの方々に楽しんでいただけるようスタッフ一同心よりお待ちしております。

第15回 病院フェスティバル

日時:平成30年10月6日(土) 10:00~15:00

場所:公立岩瀬病院

看護職を目指す高校生が看護体験をしました

「絶対にここの看護学院に入ります」「この病院で働きたいです」「看護師になる気持ちが強くなりました」看護体験の中で高校生たちが言った言葉です。

去る7月25日、看護協会事業「高校生の一泊看護体験」が当院にて行われました。医療、特に看護師や助産師に関心を持つ、高校1年生から3年生までの23名が参加し、看護師と共に患者さんの清潔ケアやコミュニケーション、車いす移送などの体験を行いました。患者さんから「ありがとう、がんばって看護師になってね」と言葉をいただき、大変感激していました。また、当院の1日職員として、キラキラの笑顔で患者さん方と接してくれました。

今の若者、志が高いです! 将来の目標をしっかりと持ち、自分の言葉で夢を語っていました。例年、看護体験に参加した高校生のうち、8割以上が医療関係の学校へ進学しているというデータがあります。進路決定の一端を担う場面に立ち会い、身の引き締まる思いを感じました。

看護師の様子を間近で見て、「スタッフステーションの中は、もっとビリビリしているのかと思ったけど、和やかで安心した。」という感想を多くの参加者が述べていました。イメージを崩すことが出来よかったと思います。命を預かる現場は、いつも緊張と集中力を求められますが、職員間のコミュニケーションがとても大切です。

最短で4年後、この中の誰かと一緒に働いているかも知れません。是非、看護職になってこの病院をそしてこの地域の医療を支えてほしいと思います。



シリーズ チーム医療 ⑱ 『自分の科から見るチーム医療について』

地域包括ケア病棟 車田 ゆかり



今年の8月で開設3年目を迎える私たちの病棟は、各科の急性期治療を終えた患者さんを受け入れ、在宅復帰を支援する病棟です。

院内多職種と連携し、患者さんが療養生活を送るために、必要とする情報や処置方法などをお伝えしています。また、ソーシャルワーカーやリハビリスタッフと共に、自宅訪問を行い、介護を提供する皆さんと直接話し合いをもっています。地域包括ケアシステムを推進するにあたり、今後さらに、ケアマネージャーや施設スタッフなど、院外多職種と協力しあいながら、患者さんが安心して暮らすことができるように支援して行きたいと思っています。



～「歯周病」とは～

歯周病とは歯の周りの組織の病気で、細菌によって引き起こされる感染症です。歯周病には歯肉炎と歯周炎があり、炎症が歯肉に留まっている初期の状態が歯肉炎。歯を支えている骨にまで広がってしまうのが歯周炎です。歯周病は生活習慣病であり、全身状態と深く関わりがあります。妊婦の低体重児出産や早産のリスクを高めたり、糖尿病にも大きな影響を及ぼします。また、心疾患や脳卒中になる危険性も高いことが分かっています。

歯周病は現在成人の8割の方が罹患している、または予備軍と言われていています。自覚症状がなく、気が付くと進行しており歯を失うこともあるため、早期に歯科医院で定期検診を受けることをお勧めします。



部署紹介《地域医療連携室》

地域医療連携室は平成16年4月に設置され、今年で14年目を迎えた部署です。設置当初は3名のスタッフで業務を行っていましたが、現在では看護師、社会福祉士、診療情報管理士、事務員ら総勢10名で構成されています。公立岩瀬病院と、地域の医療機関や介護事業所、行政機関や福祉施設等とを繋ぐ「病院の窓口」としての役割を担っています。

地域の先生方から紹介された患者さんが円滑に診療を受けられるように手配をしたり、当院での診療情報を紹介元の先生方にご報告する連携業務のほか、療養上の問題や経済的・心理的などさまざまな問題についての相談に応じながら適切な社会的支援を提供しています。また、入院中の患者さんがスムーズに転院や施設入所、在宅復帰できるよう退院支援なども行っています。



外来棟1階にある地域医療連携室

